
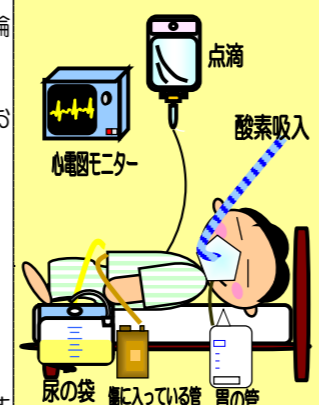


入院診療計画書(胃切除術を受ける患者様へ)

ID番号	@PATIENTID	氏名	@PATIENTNAME	様	症状	@PATIENTWARD	病棟	@PATIENTROOM	号室			
病名(他に考える病名)	担当医師	@USERNAME	印	担当看護師	担当薬剤師	その他の担当者名	@SYSDATE					
月日	術前日 (/)		手術日 (/)		術翌日 (/)		術後2日~3日目 (/)		術後4日~6日目 (/)		術後6日目以降退院日	
経過	検査データを確認しながら、手術へむけて準備を行います。		()時に手術室へ移動します。		術後は病室に戻ります。		水分開始になります。内服が開始になります。		食事が開始になります。4人部屋へ移動します		安全に日常生活の範囲を拡大していきましょう	
目標	手術の必要性を理解できる		手術室へ行くまでの流れ		痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。		痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。スタッフと一緒に、少しでもリハビリを行いましょう。ベッドサイドに立てるようにしましょう。		痛みは我慢せずに、スタッフに知らせるようにしましょう。前日より、リハビリがすすめられるように頑張りましょう。		退院後の生活について疑問点がある場合は、看護師に相談しましょう。	
検査	レントゲン		<input type="checkbox"/> 麻酔科医師の指示の内服薬があれば、服用してください <input type="checkbox"/> 前あきの下着、病院のジャマに着替えてください <input type="checkbox"/> 弾性ストッキングをはいてください(看護師が用意します) <input type="checkbox"/> 義歯、めがね、時計、指輪などを外して下さい。 <input type="checkbox"/> 貴重品は、ご家族の方へお渡しください <input type="checkbox"/> 女性の方は、化粧やマニキュアを落としてください。 <input type="checkbox"/> 髪のは長い方は2つに結び、ヘアピンは外してください <input type="checkbox"/> 午後手術を受ける方は、午前中に病棟で点滴をします		手術からお部屋に戻ったら、3時間ごとに検温します		採血・レントゲン(レントゲンはお部屋でとります)		必要に応じて採血・レントゲン			
処置	入院や手術に関して不安があれば、遠慮なく相談してください 手術前日の流れ <input type="checkbox"/> おへその掃除をします <input type="checkbox"/> 入浴(シャワー) <input type="checkbox"/> 肩に名前を書きます(医師)				初めて歩行する時は、看護師が付き添います。術後早期に歩き始めた方が、回復も早くなります。 尿の管と胃の管が抜けます 酸素と心電図モニターが終了になります 立ちましょ。		創部の管が抜けます 痛み止めの管が抜けます どんどん歩きましょう。		以下の症状があるときは受診日以外でも来院してください。 ・腹痛がひどい時。 ・排便、排ガスがなく、お腹の張りが続いている時。 ・嘔吐が続き、吐き気がひどい時。 ・黒い便が出た時。 ・高熱が出たり微熱が何日も続くような時。 わからない点、疑問点がありましたら、何でも医師や看護師にご相談ください。 外来受診について定期受診は必ず行なうようにしましょう。			
注射	ありません											
内服	飲んでいるお薬は、全て看護師にお知らせ下さい。病棟薬剤師もお薬を確認します。		朝6時まで水・茶・スポーツ飲料などの水は摂取可能です。 コーヒー・牛乳・野菜ジュースなどは飲まないで下さい。		水分を摂取する場合は、むせりや吐き気がないのを確認しながら飲んで下さい		薬は正しく服用し、必ず指示通りに内服して下さい。緩下剤の内服については、便の回数や性状を見て調節して下さい。心配なときは医師に相談して下さい。		たばこは、胃液の分泌を抑え胃粘膜を刺激しますので、 禁煙を続けましょう。 コーヒー・紅茶を摂取したい場合は、空腹時は避け、食後に薄めのを少量とるようにしましょう。		次の受診日まで必要な分のお薬が処方されます	
食事	水分は、1日1000mlを目安に補給して下さい。				足底背屈運動を行って下さい。血栓予防になります シャワー浴ができるまで、体拭きをお手伝いします。		食事は摂取しない間も、口中は清潔にしましょう シャワーの時は、きずの部分をごすらずに、シャワーで流すようにしましょう。		職場復帰、旅行などは医師に相談してください		入浴のときは… 熱いお湯は体の疲労を伴います。長湯にならないようにしましょう。	
清潔行動	活動、入浴に制限はありません。		病棟を離れるときは、看護師にお知らせ下さい。									
説明	病棟での日常生活を説明します 手術の予定や経過について説明します		麻酔科医師と、手術室の看護師の訪問があります		食事のとりかた 5分粥から開始します。 主食の量は、普通の量の半分から開始します。 ●姿勢 ・食べるときはベッドを起こすか、椅子に座りましょう。 ・食後30分~1時間は消化を助けるため安静が必要です。つかえた感じのあるときは、胃の通過を助けるため右側を下にして横になるか、座って様子をみましょう。 ●食べ方・速さ ・一口ずつ、ゆっくり、良く噛んで食べましょう。 ・お粥だけでいっぱいにならないよう、おかずから箸をつけましょう。		間食の工夫 1回の食事が少ないため、空腹感があるとき(午前10時や午後3時頃)に間食するとよいでしょう。 ○間食してよいもの ・重湯のとき・・・ジュース(炭酸を含まないもの)、乳製品を少しずつ ・3~5分粥・・・プリン、ヨーグルト、卵豆腐、カステラ、ビスケット、バナナ、メロン ・7分粥から・・・果物全般、消化のよいもの ※消化が悪いもの(イカ、タコ、キノコ)		便秘になったときは… ・腹部で「の」の字を描くようにマッサージをして下さい。 ・水分を多めにとりましょう。 ・食物繊維の多い食品をとってください。(玄米・豆・芋類・果物・バナナなど) ・お腹のはりは食事の進みにくい原因になります。湯たんぽなどでお腹を温め、腸の動きをよくしましょう。 ・歩行訓練は腸の動きをよくしますので、体調の良い時間をみて廊下歩行に努めましょう。		下痢になったときは… ・腹部の保温(腹巻き使用) ・脱水になりやすいので、水分を補給しましょう。 ・温かい消化の良い食べ物を摂取しましょう。(お粥・煮込みうどん・葛湯・ヨーグルトなど) ・以前より下痢を起こしやすい食事は、術後も控えましょう。 ・下痢止めの薬の乱用は慎むよ	
胃の手術を受けられる方へ	スーフル呼吸訓練を行ってください 必ず禁煙して下さい。		胃のはたらき 胃は食物を一時ためる臓器です。食物と胃液を粥状にし、十二指腸へ送り出すポンプの役割を担っています。しかし、手術で胃が小さく、または胃がなくなると、腸や食道に負担がかかりやすくなります。また消化液の分泌も少なくなるので、栄養の吸収も弱まっています。ここでは、手術後の食事摂取のポイント									

注1) 病名は現時点で考えられるものであり、今後の検査等を進めていくにしたがって変わり得るものです。
 注2) 入院期間については現時点で予想されるものです。
 注3) 特別な栄養管理の必要性については、電子カルテ等様式の変更が直ちにできない場合、食事の欄に記載してもよい。

上記内容について説明を受け同意いたしました。

署名: _____ 続柄: _____

特別な栄養管理の必要性

